

GunMaaS「車依存社会からの脱却」掲げるが… スマホ一つでルート検索から決済まで？ マイナカード取得前提に批判も

6月8日に開かれた交通・次世代産業振興特別委員会では、MaaS（Mobility as a Serviceの略）に議論が集中しました。国が進めるデジタル田園都市国家構想の一環。

県民の公共交通に対する満足度を調べた群馬県幸福度レポートによると、「利用しやすいと感じるか」の質問に、30代から50代で特に低く6~10%にとどまり、逆に「感じない」は70%前後にのぼります。地域別では偏りがあるものの、前橋地域は県庁所在地でありながら、「感じる」と答えたは9%弱で、高崎・安中地域の約半分という低さです。さらに群馬に転入してきた方ほど「感じない」と答えています。

こうした過度な自家用車依存社会である現状を打開しようと、県では、鉄道やバス、タクシーやデマンド交通など既存の公共交通の利便性を高め、目的地までのルート検索から予約、決済までをスマホ一つで完結できるシステム（GunMaaS）を進めています。当初予算は4億4千万円余。現在、約5600人が登録しています。前橋では3月からサービスを開始、県は他の地域にも広げたい考えですが、その目途はたっていません。しかも前橋版は、割引サービスを受けるのに、マイナンバーカードの取得が前提となっています。

酒井宏明県議は、スマホ一つで完結できれば便利かもしれないが、マイナンバーカードを持たない人を差別するものだと県民から批判が寄せられていると指摘。こうしたことに税金をつぎ込むよりも、バス停などのバス待ち環境の改善や、パーク＆ライドの駐車場・駐輪場の整備、市町村乗合バス等への補助など、事業者や市町村任せにしないで、県としてしっかり取り組むよう求めました。